

現代日本ファッション・デザインの研究
Research on Japanese Contemporary Fashion Design

高木 陽子*¹⁺, 成実 弘至*²⁺, 西谷 真理子*³⁺, 堀 元彰*⁴⁺
Yoko Takagi*¹⁺, Hiroshi Narumi*²⁺, Mariko Nishitani*³⁺, and Motoaki Hori*⁴⁺

*1 文化女子大学 文化ファッション研究機構 東京都渋谷区代々木 3-22-1

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University,
3-22-1 Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 京都造形大学芸術学部

Department of Art, Kyoto University of Art and Design

*3 文化出版局

Bunka Publishing Bureau

*4 東京オペラシティアートギャラリー

Tokyo Opera City Art Gallery

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : In the 1980s, both Tokyo as well as Antwerp were the cradles of cutting-edge fashion and both took the lead in changing the Fashion System. At the occasion of the exhibition "6+ Antwerp Fashion" at the Tokyo Opera City Art Gallery (April 11- June 28, 2009), we compared fashion from these two cities and organized a symposium "Talking on Antwerp Fashion" on April 11, 2009, inviting Geert Bruloot, promoter of the first generation of Antwerp designers, Hirofumi Kurino, buyer and Keiko Hirayama, journalist who both introduced Antwerp Fashion to Japan. We also invited three former Japanese students from the Fashion Department of the Antwerp Royal Academy of Art. As a next step, we are selecting 8 Japanese independent designers whose brands symbolize contemporary Tokyo and will do research on their special qualities.

はじめに

本研究では、グラフィックや音楽などのサブカルチャーと結びつきながら新しい展開を見せている日本のファッション・デザインを、美術史・デザイン史と文化社会学の研究者に、キュレーター、編集者といったファッション文化媒介者を交えて分析する。

方法

1980年代に世界のファッション界にインパクトを与えた新興勢力があった。ポストモダンのファッシ

*1) takagi@bunka.ac.jp

オンを代表する東京とアントワープである。両者ともファッションの伝統がない地域から発生し、近代的なファッションシステムを変貌させる契機をつくった。本年度は、まず「6+アントワープ・ファッション」展と協同し、両者を比較する。アントワープデザイナーの第一世代のプロモーターGeert Bruloot 氏、日本にアントワープ・ファッションを紹介したバイヤー栗野宏文氏、ジャーナリストの平山景子氏、そして3人の王立美術アカデミーファッション科の日本人元学生を招き、シンポジウムを行う。次に、現代の東京を象徴する8人の独立型デザイナーをセレクトし、デザインの特質と海外のファッション産業の拠点における評価を調査分析する。

結果と考察

- 1、「6+アントワープ・ファッション」展[1,2]オープニングトーク「アントワープを語る」企画・運営。主催:(財)東京オペラシティ文化財団、服飾文化研究共同拠点「現代日本ファッション・デザインの研究」4月11日(土)14:00-16:00、於東京オペラシティ [3,4]
- 2、研究会6回開催。第1回(4月11日)本年度の研究の進め方について。第2回(5月29日)文化女子大学紀要共同執筆。第3回(10月24日)研究法の検討。第4回(12月13,14日)京都国立近代美術館河本信治氏、神戸ファッション美術館百々徹氏聞き取り調査。第5回(2月23日)第6回(3月24日)現代日本のファッション・デザイン資料収集整理。
- 3、ロンドン、パリにおける現代日本ファッション・デザイン評価視察・聞き取り調査。

文献

1. 高木陽子・東京オペラシティ編『6+アントワープ・ファッション』展図録, カート・デボ, カロリーヌ・エヴァンス, キャシー・ホーン, 高木陽子, バーバラ・ヴィンケン, (翻訳)高木陽子, 成実弘至, 平芳裕子, 蘆田裕史, (校閲)西谷真理子, アントワープ, リュディオン, 2009。
2. 高木陽子「日本からみたアントワープ」『6+アントワープ・ファッション』展図録, pp.30-37, アントワープ, リュディオン, 2009。
3. 「6+アントワープ・ファッション」展オープニングトーク「アントワープを語る」実録レポート:
<http://www.operacity.jp/ag/exh105/j/talk.html>。
4. 高木陽子, 成実弘至, 西谷真理子, 堀元彰「アントワープ・ファッションを日本から検証する」, 『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』, 第41集, pp.35-46(2010)。
5. 成実弘至「デザイン創造都市——京都ブランドに見るもの作りの可能性」, 松井利夫・上村博編『芸術環境を育てるために』角川学芸出版, pp.238-257(2010)。

